

好気性発酵乾燥方式

事業者向け意向調査実施（令和7年10月着手）に係る中間報告

先の8月組合議会定例会での採決を受け、管理者会議を開催し、今後の方針について議論を行ってまいりました。

その中で、8月組合議会定例会では「好気性発酵乾燥方式における交付金1/2の実現が難しい」という点を中心に説明したことから、費用面での議論に重点が置かれていましたが、仮に費用面で一定の実現可能性が認められたとしても、そもそも『事業スキームとして成立するのか』、すなわち『事業継続の安定性を確保できるのか』という点について、あらためて確認すべきという意見がありました。そこで今回あらためて、関係事業者に対し、現時点での意向調査を実施しましたので、その調査結果と、そこから明らかになった新たな課題について報告いたします。

①好気性発酵乾燥方式における施設建設および運営事業者

- ・ 株式会社アンビエント（本社：東京都千代田区
本店：滋賀県栗東市）
- ・ 他1社（非公表）

②組合が生成する燃料原料（フラフ）の販売先

- ・ 株式会社カンポ（滋賀県：日野工場）

意向調査は、次の事業者を対象に実施しました。

①好気性発酵乾燥方式の施設建設および運営を担う事業者として、「株式会社アンビエント」と「他1社」の計2社です。なお、「他1社」につきましては、現時点で社名公表の同意が得られていないので、「他1社」と表記しております。

②組合が生成するフラフの販売先として、現在唯一確保できている事業者である「株式会社カンポ」です。

①好気性発酵乾燥方式における施設建設および運営事業者

株式会社アンビエント

設 立：2023年（令和5年）

本 社：東京都千代田区／本店：滋賀県栗東市

出 資 者：株式会社三東工業社（上場企業）51%
新和産業株式会社49%

運営実績：なし

実験施設

滋賀県甲賀市（2025年2月稼働）

・処理能力：5t/日

・主要設備：バイオトンネル2基
（W=3.0m*H=3.0m*L=5.0m）
バイオフィルター1基

他1社（非公表）

運営実績あり

①好気性発酵乾燥方式の施設建設および運営を担う事業者である「株式会社アンビエント」の会社概要です。

「株式会社アンビエント」は、「株式会社三東工業社（栗東市）」と「新和産業株式会社」が2023年に共同で設立された会社です。現時点では施設建設および運営の実績はありませんが、2025年2月に滋賀県甲賀市に好気性発酵乾燥方式の実験施設を整備されており、その規模は日量5トンの処理能力となっています。なお、「他1社」の会社概要は省略していますが、好気性発酵乾燥方式の運営実績がある会社です。

意向調査への回答

株式会社アンビエント

今回の意向調査では、『現時点においても事業への参入意向がある』との回答であった。ただし『見積額は前回調査と変わらない』とのことであった。

このほか、フラフの需要先に関連して、燃料化以外のマテリアルリサイクルやケミカルリサイクル用途への需要動向についても情報提供があったため、詳細確認中。

補足情報

2025年4月：組合職員が甲賀市内に新たに設置された実験施設を視察。視察時には、2回目の試験運転中で安定処理を確認

他1社（非公表）

今回の意向調査では、『事業参入は困難』との回答であった。理由は、プラントメーカーではないため。（※施設の設計・建設ができないため。）

補足情報

前回の追加調査では、体制が整った時点で提出するとして、見積書提出を辞退していた。

今回の意向調査に対する2社からの回答です。

「株式会社アンビエント」につきましては、『現時点においても事業参入の意向がある』との回答でした。また、さらなる費用削減の可能性についても確認しましたが、『見積額は前回調査と変更はない』との回答でした。

なお、フラフの需要先に関連して、当組合では現在、フラフを固形燃料化しサーマルリサイクルとして活用する計画ですが、それ以外にマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルの手法について情報提供があり、現在その詳細を確認しています。

「他1社」につきましては、今回の意向調査では『プラントメーカーではないため（施設の設計・建設ができないため）、事業参入は困難である』との回答でした。

なお、前回の追加調査（令和5年度～6年度実施）では、当組合からの見積書提出依頼に対し、『事業参入の意向はあるものの、体制が整っていないため、体制が整った時点で提出したい』との回答をいただいております。

②組合が生成する燃料原料（フラフ）の販売先

5

販売先事業者：株式会社カンポ（RPF製造業者）

設立：1975年1月

事業内容：産業廃棄物の収集・運搬・処理など

工場：①日野工場（滋賀県）

処理能力：93.2t/日（圧縮固化施設）

2024年度実績：年間 3,266.3t

平均：月当たり272.2t

日当たり12.6t ※稼働日数260日/年として算出

②京都工場

処理能力：102.0t/日（圧縮固化施設）

日野工場のバックアップ施設として想定

次に、②組合が生成する燃料原料（フラフ）の販売先であるRPF製造業者「株式会社カンポ」の会社概要です。

同社は産業廃棄物処理業を営む会社で、RPF製造工場として、滋賀県日野工場と京都工場があります。

今回の意向調査でのRPF製造業者からの要望・条件①

6

燃料原料(フラフ)の塩素濃度が0.3%以下であること

項 目	当初 (R6.6アンケート調査)	Aランク品質 (R7.11意向調査)	当組合見込
高位発熱量	21 MJ/kg 以上	-	22.9 MJ/kg
水 分	5%以下	-	5%
灰 分	10%以下	-	10.26%
塩 素	0.3～0.7%	0.3%以下	<u>0.6%</u>

今回の意向調査に対する「株式会社カンポ」からの回答内容です。

同社から新たに提示された条件として、『フラフの塩素濃度を0.3%以下にする』ことが示されました。

前回の追加調査の際に当組合で実施したフラフ品質シミュレーションでは、塩素濃度は0.6%となる見込みであり、また前回調査時点では「0.3%～0.7%まで受入れ可能」との回答であったため、当時はその範囲内であると整理しておりました。

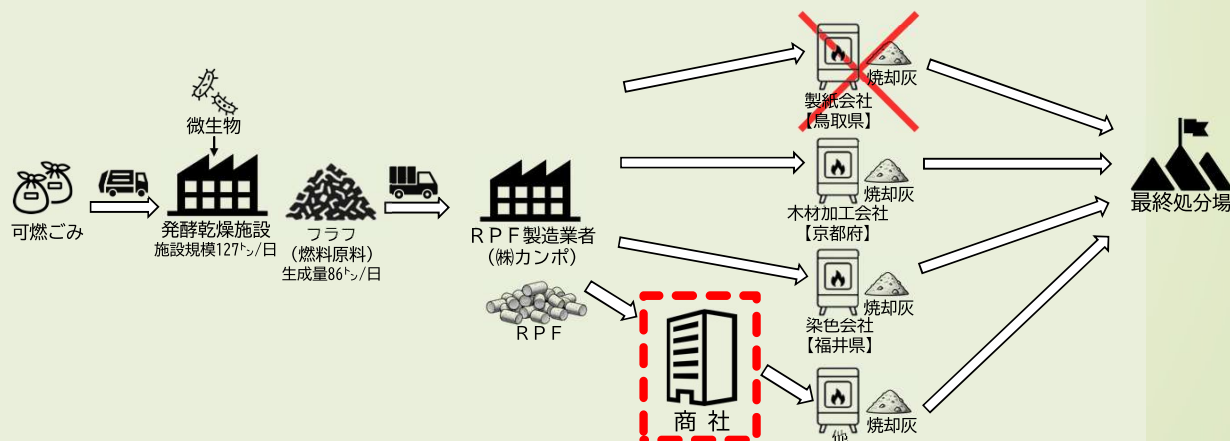
今回、新たな条件が示されたことにより、フラフの塩素濃度について、さらなる対応が必要となっております。

今回の意向調査でのRPF製造業者からの要望・条件②

7

改めて、固形燃料に一般廃棄物由来の原料が混合されることに懸念が示され、
一部の販売先が無くなったため、その代替として、一部商社を仲介させる形にしたい

好気性発酵乾燥方式(変更後)



「株式会社カンポ」からの二点目の要望として、同社が取引する燃料利用業者のうち、鳥取県の製紙会社から、一般廃棄物由来の原料（フラフ）に対する懸念が示され、RPF燃料の販売先として見込めなくなったため、その代替として一部商社を仲介させる形での取引としたいとの要望がありました。

当組合として、商社を通じた取引も対応可能ですが、いずれにしても「塩素濃度0.3%以下」が前提となるとのことです。

- ① 現状、施設建設および運営事業者として、事業発注できる可能性のある事業者は「株式会社アンビエнта」1社のみとなりました。
- ② 販売先の求める燃料原料(フラフ)の品質は、塩素濃度が0.3%以下であること。
現在計画している組合の施設では、要求水準を満たすことが非常に困難であるため、対策案を調査中です。

最後に、今回の関係事業者への意向調査を通じて明らかとなった新たな課題を整理します。

まず、「他1社」から「事業参入は困難」との回答であったため、施設建設および運営事業者として、事業発注できる可能性のある事業者は事実上「株式会社アンビエнта」1社のみとなりました。

また、フラフの販売先として、現時点で唯一確保できている「株式会社カンポ」からの回答により、組合で生成するフラフは塩素濃度0.3%以下にする必要が生じております。

しかし、現在計画している組合の施設では、この水準（塩素濃度0.3%以下）を満たすことが非常に困難であるため、現在、対策案を調査中です。